



さんびょう6

三錨 VI

本気に 元気に 根気よく

四日市市立富洲原小学校
学校だより

No. 13

平成29年 9月 26日

◇ 全国学力・学習状況調査の結果と分析

4月18日に、6年生を対象に実施をしました、「全国学力・学習状況調査」の結果が、8月末に公表されました。これは、文部科学省によって平成19年度から実施されている全国的な学力等の調査で、小学校6年生と、中学校3年生が毎年4月に実施しています。6年生が実施したのは、国語と算数の2教科で、それぞれ知識・技能の定着をみる「A問題」と、知識・技能の活用力をみる「B問題」に分かれています。また、学力調査と同時に、「児童質問紙」による学習状況調査も実施されました。

個人の結果については、9月8日に個票を渡しお知らせしてあります。ここでは、学校全体の結果に対する分析と、今後に向けた取組等についてお知らせします。



《学力調査から》

1 全体としての傾向

- ① 学年集団全体として、正答率が過去3年間と同様に一定の水準を維持している。
- ② 国語A（基本問題）：全国平均・県平均と同程度である。
- ③ 国語B（活用問題）：全国平均・県平均をわずかに上回っている。
- ④ 算数A（基本問題）：全国平均・県平均と同程度である。
- ⑤ 算数B（活用問題）：全国平均・県平均をわずかに下回っている。
- ⑥ B問題（活用）では、どちらも上位と下位層に山があり、中位層が少ない傾向がある。

2 結果から見える本校の強みと弱み

【国語】

- A問題において、漢字や言葉など、「書くこと」に関する基礎的な力が定着している。
- B問題において、物語の読み取りなど、「読む力」に強みがある。
- B問題において、無回答率が低かった。
- ▽ B問題において、論理的考え、的確に書いて説明する力がやや弱い面がある。
- ▽ A問題において、「話すこと・聞くこと」の力が弱い。

【算数】

- A問題において、基礎的な計算技能は、全国平均をかなり上回っていた。
- ▽ B問題において、図形や割合の問題において論理的に説明できる力が弱い面がある。
- ▽ B問題において、無回答率がやや高く、後半問題になるにつれ高くなっている。
- ・ 全体としては、基礎的な知識・理解・技能は定着してきているが、論理的に考え、それを的確に書いて説明する力が足りない傾向がある。

3 指導の工夫・改善について

【国語】

- ・ 朝のベーシックタイムでの、漢字の定着や、語彙や表現力を豊かにする取組を続ける。
- ・ 読書の機会を増やすよう、「読書週間」や「なのはな文庫」、「学級文庫」の活用を図る。家庭での読書習慣の啓蒙も図っていく。
- ・ 授業中の発表の機会を増やすため、ペアやグループでの話し合いを取り入れる。全体の場でも、みんなに伝わる話し方ができるような活動の機会を多く取り入れる。

【算数】

- ・ 引き続き、朝のベーシックタイムでの、基礎的な問題の反復練習の取組を進める。
- ・ 問題の解答において、立式の意味や考え方について、確かめたりわかりやすく説明したりする活動を取り入れる。その際、思考の一助として、半具体物や線分図等の活用を図る。
- ・ その時間の、「めあて」と「振り返り」を明確にし、学習内容について、自分なりの定着を図れるようにする。

《学習状況調査から》（全国や県の結果と比べての本校の特徴）

1 基本的な生活習慣

- 朝食をきちんととり、規則的な就寝・起床時刻を守っている子が多い。
- 最後までやり遂げた経験がある、自分には良い所があると答えた子が多い。
- 友達の前で自分の意見を発表することは得意な子が多い。
- 友達の意見を受け止めて、自分の考えを持つようとしている子が多い。
- 将来の夢や目標を持ち、学んだことを他の学習や普段の生活に活かそうとしている子が多い。
- ▽友達の意見を最後まで聞くのが出来ていない子が多い。

2 家庭生活

- テレビ・ビデオを見たり、ゲームをしたりする時間が少ない子が多い。
- 学校の授業時間以外で、普段勉強している時間が長い子が多い。
- テレビやゲームの時間などのルールを、家の人と決めている子が多い。
- 家の人や、授業参観や運動会などの行事によく来てくれる。
- 家で計画を立てて勉強をしている子が多い。(特に復習)
- ▽携帯やスマホで通話・メール・インターネットをする時間の長い子が多い。
- ▽普段読書をする時間や、図書館へ行く機会が少ない子が多い。
- ▽携帯やスマホの使い方について、家の人と約束がない、あまり守っていない子が多い。
- ▽家の人と、将来のことについて話すことがある子が少ない。

3 地域・社会への関心

- 今住んでいる地域の行事に参加している子は多い。
- 新聞や、テレビなどのニュースを見ている子は多い。
- ▽地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある子が少ない。
- ▽将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就きたいと思っている子が少ない。

4 学校生活

- 学校へ行くのが楽しい、学校で好きな授業がある、友達と会うのが楽しいと答えた子が多い。
- 先生は、あなたのことを認めてくれている、分かるまで教えてくれると答えた子が多い。
- 友達との約束を守る、困っている人は助ける、いじめはどんなことがあってもいけないと答えた子が多い。
- 役に立つ人間になりたいと思っている子が多い。
- 5年生までの授業では、話し合う活動をよく行ってきた。
- 国語も算数も、大切に将来役に立つ勉強だと答えた子が多い。
- ▽5年生までの授業では、ノートに学習の目標やまとめを書いていた子が少ない。
- ▽原稿用紙2～3枚の感想文を書くことが難しいと答えた子が多い。

- ・ほとんど100%近い児童が、友だちや先生と、学校で関わることに楽しさを感じているという結果は、何より大事なことであり、うれしいことでもある。
- ・基本的な生活習慣については、肯定的な回答が多く、規則正しく落ち着いた生活を送れている児童が多い。
- ・スマートホンを所持し、それを操作している時間が長く、家で決められたルールが守れていないと回答した児童の割合が多い。ご家庭でも、お子さんと一緒に考えてみてください。
- ・読書や、文章を書くことに対する抵抗のある児童の割合が高い。今後、さらに言語活動に力を入れていきたい。
- ・地域行事にはよく参加しているが、地域をよくするために何をすべきかまでは、思いがいかない。社会科や総合的な学習で意識して取り組んでいきたい。

《学校質問紙からみた本校の特長》(全国や県の結果と比べての本校の特徴)

- 「教職研修・教職員の取組」、「児童の状況(学習への意欲・態度)」「個に応じた指導」の観点で、全国及び三重県平均より上回った。
- ▽「地域の人材・施設の活用」「家庭学習」の観点で、全国及び三重県を下回った。
- ・教職員が、一つのチームになって教育活動にあたり、学校全体としては、落ち着いた状況で授業が行われている本校の強みは、今後も伸ばしていきたい。
- ・地域の人材や施設の活用については、地域探検や、生活科学習、防災訓練、人権学習などで取組を行ったり計画したりしている。今後も、コミュニティスクールとして、さらに取組を進めていきたい。

《最後に》

今回の調査は、4月時点で、現6年生を対象としたものです。その学年の特徴もあるでしょうが、学校全体としての傾向が表れている部分もあると思います。結果について、校内はもとより、「学びの一体化」の取組の一環として、保・幼・中学校とも共有しながら、今後の取組に活かしていきたいと考えています。保護者のみな様には、家庭での基本的な生活習慣や家庭学習の習慣化にむけて、引き続きご協力をお願いいたします。

